

学界消息

るが、当地域の実態を示す史料が見当らないため、日根野で分析しうる以上の具体像を得られなかったのは残念である。松尾寺の相伝する和泉国惣講師職なるものの存在は非常に興味深く、本書で扱いた所ではすでに得分権化しているようだが、この問題は前述した大念仏本尊廻在や次の第五節「戦国時代」でふれている惣長者、さらには国衙や守護体制の問題とか渡辺党の惣管職の問題とも関連させて、今後和泉一國規模の分業形態の問題として深めていく素材となろう。

最後になったが、本書の後半部分の三百六十頁余が史料編となっており、約五十点の松尾寺文書をはじめ公卿日記から在地文書まで本編の典拠となった史料を収録しており、学界に裨益するところ大である。あらためて三浦氏の労に感謝して筆をおくこととする。

(A5判七三七頁 昭和四〇年一月 大阪府和泉市役所発行)

(村田修三)

日本地理学会 一九六六年度春季大会

四月一日～三日 研究発表

四月四日～六日 巡検

於、立正大学文学部

〈会長講演〉

日本における地誌の伝統とその思想的背景 石田龍次郎

〈研究発表〉

会津盆地における水田裏作

菅平の嬌恋の高冷野菜

甲府盆地西部地域の温室園芸

関東における養鶏業の発展

さく河性サケ・マス漁獲量の地現的意義

最近の本邦における木炭生産地の変貌 千葉 徳爾

四国地方の製炭類型 福宿 光一

わが国におけるスギのさし木地域 篠原 重則

三重県を除く沿海地域における真珠の養殖の展開(第三報) 小栗 宏

強盗島・諸島の地図について 木村東一郎

香港における消費生活条件の特質 横山 昭市

アメリカにおける Residential Community の形成 相馬 正胤

英国ニュータウンの採来 井内 昇

アメリカ都市におけるマイノリティーグルー

プの生熊 二神 弘

北、西ドイツ Paderborn 台地上の農村とその構造変化 浮田 典良

遠州灘沿岸西部における海浜堆積物について 山内 秀夫

静岡県三保半島における海浜変動 中山正民その他

南薩台地縁の海蝕地形について 高橋 達郎

種子島の海岸段丘 中田 高

兵庫県大塩沿岸水域の底質の粒径分布について 井口正男・高村弘毅・原 昭宏

日本海の海底地形構造 茂木昭夫・川上喜代四

日本海 of 海底底について 川上喜代四・茂木昭夫

大洋水深総図の海底地形の地名 松崎卓一・川上喜代四

沖永良部島に於ける集落の屋敷名による考察 山口弥一郎

磐城の村落構成とマツリ 高木 秀樹

近世前期の塙在家―大磯丘陵北西地域の場合 浅香 幸雄

吉野川下流平野における糸里の復原的研究 服部 昌之

高須輪中における株井戸の歴史地理的考察 松原 義継

和泉地方における耕地整理・土地区画整理区 大越 勝秋

神通川水系の電源開発の経過とその特性 北林 吉弘

紀の川平野における灌漑水利について

堀内 義隆

新潟平野西部西川流域の灌漑水利

磯部 利貞

河川の人文地理的分類に関する一試論

森滝健一郎

郡山における工業地域形成の展開

吉田 宏

大都市日用消費財工業の存立形態

井出策夫・竹内淳彦

造船業における下請利用の地域的差異

山本 茂

徳島県の工業開発をめぐる若干の問題

重見 之雄

東京杉並方面の医師の分布と抽出調査による

その実態―第三報―

今村 学郎

園勢調査人口の誤差

今村 学郎

温泉地における観光産業の形成―鬼怒川・伊

香保温泉を中心として―

山村 順次

日本の高地における観光地発展の諸条件

石井 実

福井県西谷村における水害と被災者問題

横田 忠夫

積雪地域における社会問題

市川 健夫

広島県における移民母村の研究①

石川 友紀

明治大正期における離村地域形成とその構造

東北、関東における農家人口減少の地域的バ

タインとその特性

金藤 泰伸

石垣島に於ける開拓移民の定着率と子女の離

村について

赤嶺 康成

園勢調査結果からみた市町村人口の増減とそ

の類型

大友 篤

わが国における経済人口ポテンシャルの分布

について

山本正三・奥野隆史・高島伸欣

昼夜人口の乖離と行政区画

田辺 裕

わが国大都市地域における人口増加率分布の

推移

伊藤 達雄

東京の都心地域をめぐる機能の地域的展開

石水 照雄

BN統計法による都市機能変化の分布につい

て

渡辺 良雄

江戸市街地拡大と土地造成について

小沢 利雄

都市パターンの概念図式

服部銈二郎

東京における繁華街性地域の構造

松沢 光雄

東京大都市圏における金融機関の集中と拡散

山鹿 誠次

北海道における商圏構造

小川博三・村田 博

三國国道の開通が周辺地域に及ぼす影響

有末武夫・石井実・山本正三

その他、自然地理に関する研究発表が行なわれ

た。

会告

さる三月七日国民の祝日に関する法律の一部改正案の国会に
 に対し、本会のほか関西五学会協議のもとに、次の声明を發表
 いたしました。

声 明

本日「国民の祝日に関する法律」の一部改正案が
 国会に上提され、敬老の日・体育の日と共に、旧紀
 元節の二月十一日を、建国記念日と定める旨の法律
 改正がおこなわれようとしています。

わたくしどもは、歴史研究の立場からこの改正に
 より、建国記念日が制定されることには強い危懼の
 念をいだくものであります。史実の上でまったく根
 拠のない二月十一日を建国記念日とすることは、国
 民の歴史教育、ひいてはその歴史意識に混乱をまね
 くおそれのあることを深く憂慮せざるをえません。
 このような点において、わたくしども関西地方の
 歴史関係諸学会は一致して法案の制定に反対の意志
 を表明いたします。

昭和四十一年三月七日

大阪歴史学会
 史学研究会
 日本史研究会
 兵庫史学会
 民主主義科学者協会
 京都支部歴史部会
 歴史科学協議会

本会新役員

本会役員の新任期は、さる三月三十一日をもって満了し、新役員
 は、理事会及び評議員会におきまして、次のとおり決定しまし
 たのでお知らせいたします。

理事長	小葉田 淳	理事	会田雄次	評議員	石田一良	監事	内田吟風
			有光教一		梅溪 昇		水野清一
			織田武雄		大島利一		林屋辰三郎
			佐藤 長		木内信蔵		長広敏雄
			時野谷 勝		小林行雄		時野谷 勝
			貝塚茂樹		酒井三郎		西村陸男
			井上智勇		岸俊男		豊田 堯
			赤松俊秀		岡崎 敬		西村陸男
			秋山国三		今津 晃		藤岡謙二郎
			小野川秀美		今中寛司		前川貞次郎
			佐伯 富		越智武臣		(*印常務)
			田村実造		愛宕松男		
			中山治一		慶松光雄		
			羽田 明		水津一朗		

委員会だより

◇：本号、刊行がいささかおこなれていることを幸いに「第四種・学術刊行物」認可後のやすい料金でお届けするべく発送を待っておりましたが、お役所仕事にて今に認可がおりませず、止むなく高い郵送料金をもろにかぶって、お届けいたします。

◇：結局本号、アブハチとらざとなりましたが、それというのも皆様方からお預かりいたしておりますが、一文も無駄にはすまいとの考えからでありまして、この辺の事情あしからずご賢察下さい。会誌発送がおくれました結果、夏のボーナスにてお納めいただく（？）の会費が当方の希望額を下廻ってしまいました。会費不足の方は、どうぞよろしくお願いいたします。

◇：次号には、昨年度大会講演の貝塚茂樹氏はじめ村山修一、河北稔、米田治泰の諸氏、および菊地康明氏の続編を掲載しております。これは郵送料の第四種指定後にお送りしますので、九月下旬となりましてお含みおき下さい。

◇：なお郵送料は軽減されますが、その分は印刷費の値上がりですべて吸収されてしまいます。従いまして会費値下げ、あるいは増頁などの措置はとるわけには参りませんので合わせてお含み下さい。

委員

(なお前評議員小牧実繁氏は、本会顧問に推薦)

澄田正一 末永雅雄 鈴木成高

竹田聰洲 高瀬重雄 竹内理三

内藤 晃 角田文衛 奈良本辰也

野間三郎 西井克巳 野上俊静

原 弘二郎 荻原淳平 林 健太郎

平山敏治郎 樋口隆康 日野開三郎

藤原利一郎 福尾猛市郎 藤井 駿

前田一良 別技篤彦 宝月圭吾

水川温二 松井武敏 松本信広

村山修一 宮崎円遵 武藤 誠

山本達郎 山口平四郎 山崎 弘

横田健一 米倉二郎

(評議員*印は委員兼務) 朝尾直弘

熱田 公 石原 潤 稲葉一郎

小貫 徹 近藤喬一 武藤 直

一九六六年四月二五日印刷 定価三〇〇円
 一九六六年五月一日発行

史 林 (第四九巻第三号)

発行所 京都市左京区吉田本町
 京都大学文学部内

史 学 研 究 会
 理事長 小 葉 田 淳
 振替京都五一五五番

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
 中村印刷株式会社